

## Ⅱ．活動拠点屋敷林の植生

早川直美 阿久井和夫

### 1. はじめに

トトロのふるさと財団が狭山丘陵でトラスト活動を始めて10年以上過ぎた。これから、さらに活動を発展させるため、情報の発信基地として、人が集まる活動の拠点として、狭山丘陵に近い農家の家を取得した。そこは、早い頃から狭山茶を生業として茶工場を持ち、家の周りに茶畑、狭山丘陵にはヤマを持つ農家だった。広い庭や、ブタ小屋のあと、外便所など、今は使われていないとはいえ、狭山丘陵周辺のそれまでの暮らし感じさせる家である。

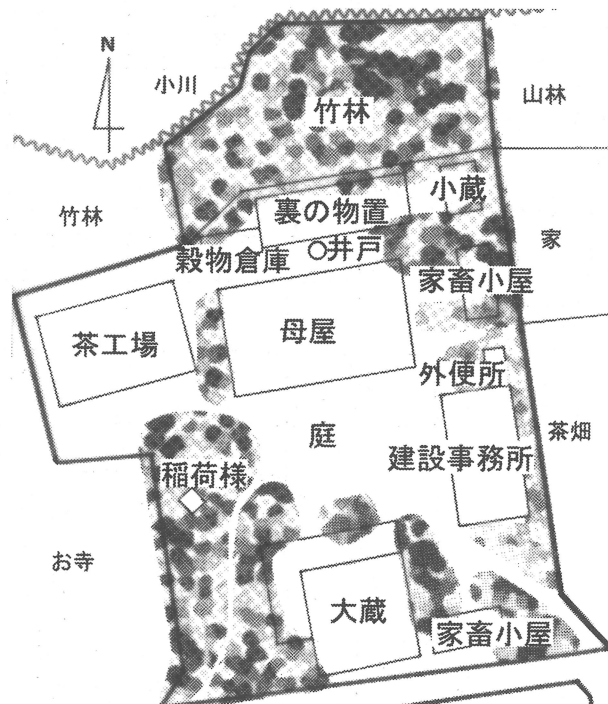
屋敷が大きかったため、当主が亡くなってからは庭木の手入れまでやる時間がなかったという家族の説明どおり、屋敷の樹木はからみあうように大きくなっている。これから屋敷をリフォームするにあたり、何が植えられているのか、現状を記録し手入れに役立ててもらおうべく調査をした。

裏の斜面林はモウソウチクが入り込み、入れる状況ではないので、片づけをしてから引き続き記録を残すための調査をしたいと思う。

### 2. 調査の概要

#### 1) 調査地の概要

調査地は面積900坪で、2004年12月トトロのふるさと財団が取得した土地で、所沢市三ヶ島地内の茶畑に面する農家である。狭山丘陵の北側の裾野に位置する。屋敷は東は茶畑、南は道路と住宅、西はお寺、北は小川にいたる斜面林となっている。斜面林はモウソウチクに覆われ、大きなアオギリやケヤキなどが点在している。(図Ⅱ-1)



(図Ⅱ-1) 屋敷の配置図

## 2) 調査の実施

2005年に都合3回実施した。その日時と内容および従事者人数は下記の通りである。

第1回 2005年8月24日 毎木調査、樹冠投影図作成(3名)

第2回 2005年9月5日 樹冠投影図作成(1名)

第3回 2005年10月7日 樹冠投影図作成(1名)

## 3) 調査方法

調査は、コドラート法によって行なった。コドラートの大きさは、木本群落で $5 \times 5 \text{ m}^2$ とした(図II-2)。

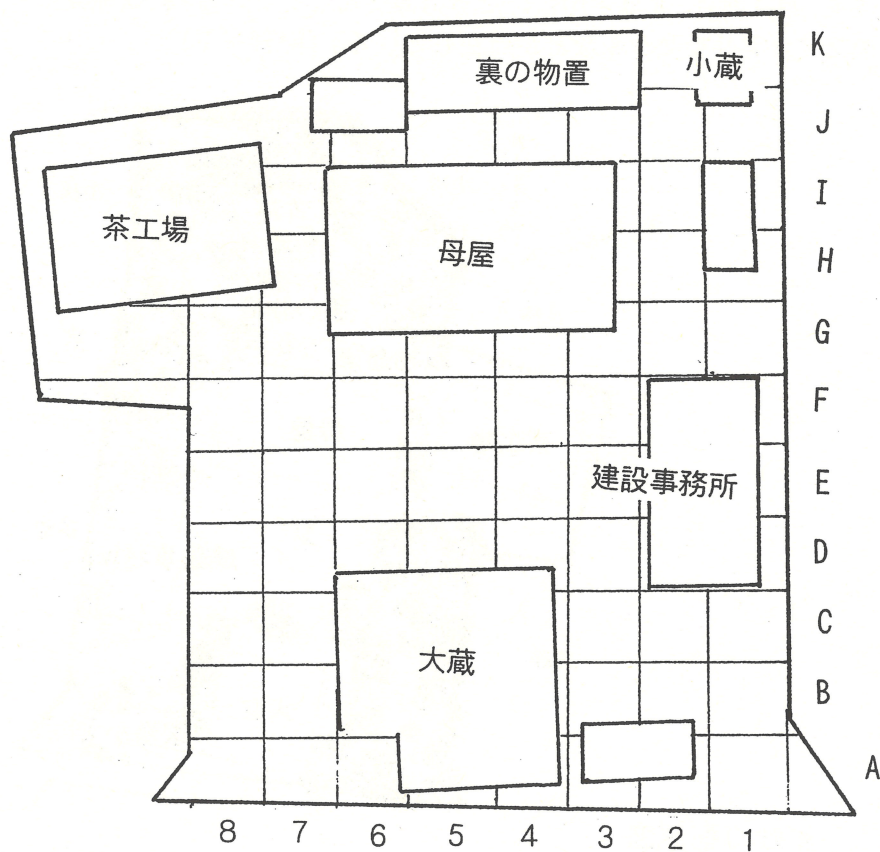
### (1) 木本群落調査

コドラートごとに毎木調査を実施した。全樹木を対象に、胸高直径(DBH)および樹高を計測した。また、対象木すべてをマッピングし、樹冠投影図を作図した。

毎木調査によって得られたデータをもとに、出現種ごとに胸高断面積(BA)を求めた。

### (2) 林床群落の記録

季節ごとに植栽された植物が咲く。それを記録し、主なものの位置を樹冠投影図に加えた。



(図II-2) コドラートの位置

### 3. 調査結果

#### 1) 木本群落

屋敷の周囲で52種の木本種が確認できた。表II-1から本数の多い順には、シュロ、ヤブツバキ、ヒサカキ、シラカシ、ウメモドキ、カキとなる。シュロやツバキは樹高の高い木が多く、庭木として植えていたものと思われるが、ウメモドキとヒサカキは低木ばかりで、ここ数年に鳥が運ぶなどして生えてきたと思われる。シラカシはすでに樹形がくずれているが、樹高が高く以前はカシグネであったと思われる。蔵の前のシラカシは昭和30年の火事の際に延焼を防いだと聞いた。屋敷林としてよく見られるケヤキは少ない。

ツバキ、サザンカは本数が多く高木が目立つ。ツバキは赤いヤブツバキが多いが、品種のわからないものもある。花が咲くと、ツバキは一重咲きの赤と白、サザンカも一重咲きの赤と白だった。サザンカは枝が枝垂れるくらい大きくなっている。ユズは西側のものはカシ類に押され隣にはみだすように実をつける。東側に植えられたものは、これから大きく育つだろう。ウメやカリンは、その上にシラカシやサザンカなどが覆うように大きくなっているの、実つきが悪い。ビワは屋敷近くに植えられ、屋根にかぶさるくらいまで大きくなっている。カキやグミも数品种植えられている。ヒマラヤスギはかなり大きい、枯死しているものもある。

樹高の高い木は、シュロ、シラカシ、イロハモミジ、サンゴジュ、モッコク、カヤ、クスノキ、ネムノキ、ヒマラヤスギ、ミズキなど、大きく見ごたえがある。シュロはお稲荷さんを囲むように茂っている。今回の調査では対象にしていなかったが、屋敷裏の斜面林にはモウソウチクをはるかに超えるアオギリとケヤキがある。

食用とするものには、カキ、ウメ、カリン、クリ、ザクロ、ユズ、ナツミカン、グミ、ビワなどがある。

樹冠投影図(図II-4)からも、西側の庭木が高木、亜高木、低木と重なり合っている様子がわかる。また、東側のシラカシがカシグネだったことも推測させる。

胸高断面積の構成比をみると(図II-3)、シラカシ、シュロ、サンゴジュ、イロハモミジ、カキは本数も多く、樹高も高いので面積でも目立つ。ミズキは1本しかないが、すでに高木になっている。カキは園芸品種で屋敷の表と裏に数品种植えられている。ツバキ、ウメ、サザンカは亜高木だが本数が多いので、胸高断面積合計は大きい。

#### 2) 林床群落

1年間屋敷に出入りして気がついた草本類を樹冠投影図に書き込んだ。春には、スミレ類(園芸品種と思われる葉もあった)、フキ、ウラシマソウ、ホウチャクソウ、チゴユリ、ヒトリシズカ、フタリシズカ、ドイツスズラン、チューリップ、夏にはアジサイ、アカジソ、ミソハギ、アサガオ、グラジオラス、ミヨウガ、ツワブキ、秋にはホトトギス、クジャクアスター、などが咲いた。ほとんどは植えられた園芸種である。いわゆる庭の雑草というハルジョオン、メヒシバ、ベニバナボロギク、カタバミ類などはもちろん生える。今のガーデニングブームを考えると、地味な種類ばかりであるが、これまでの当主の趣味と生活観がうかがわれる。梅干に使うアカジソ、お盆のミソハギ、だんごの下にしくクマザサ、仏壇に飾るためのクジャクアスターやアジサイなど、引き継いでいきたい植物たちである。

#### 4. まとめ

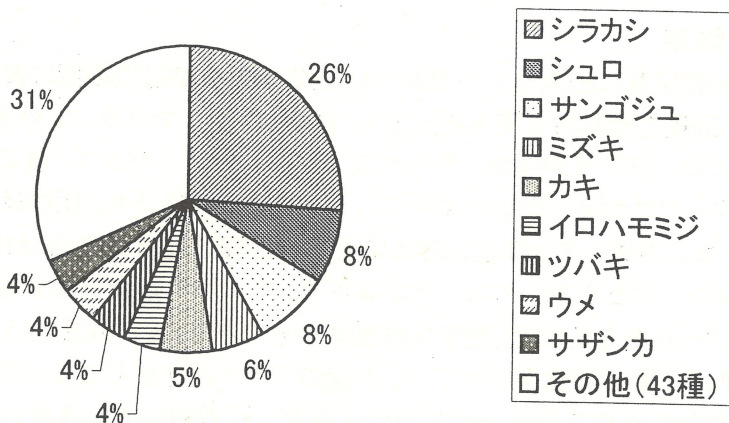
食べられる実をとるもの、垣根にするもの、花を愛でるもの、など庭木はその家の生活と密着してきた。木々に残る、その思い出も大切に引き継いでいかなければならないと思う。

樹高が伸び、枝も茂り、ある程度の手入れが必要である。庭木としての存在が重要なので、一度はプロの手による管理をしてもらいたい。

屋敷林は屋敷と一体となってその存在意義が生まれるものと考える。



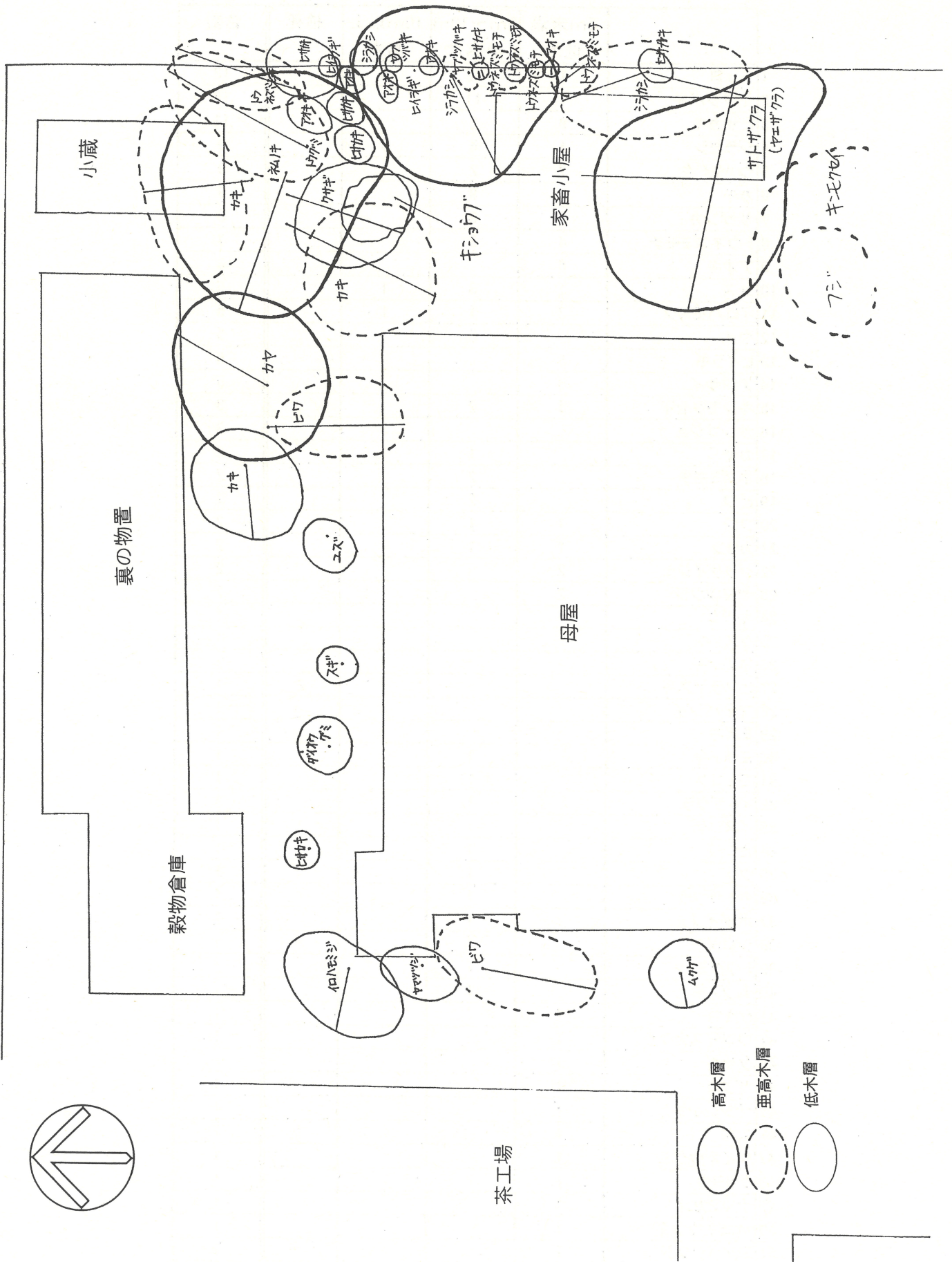
西側通路から屋敷林を通して家のをぞく



(図 II - 3) 胸高直径断面積の構成比

	5m未満 低木	5m~10m 亜高木	10m以上 高木	枯死	合計
1	シュロ	1	12	5	18
2	ヤブツバキ	7	11		18
3	ヒサカキ	9	2		11
4	シラカシ	1	4	4	9
5	ウメモドキ	7	2		9
6	カキ	1	8		9
7	サザンカ	5	3		8
8	トウネズミモチ	4	3		7
9	アオキ	6			6
10	ユズ	1	3	1	5
11	イロハモミジ	3	1	1	5
12	ウメ		5		5
13	ヒイラギ	5			5
14	アジサイ	5			5
15	キンモクセイ	1	2		3
16	サンゴジュ			3	3
17	カヤ		1	1	2
18	ネズミモチ		2		2
19	ビワ		2		2
20	フジ	1	1		2
21	カリン	1	1		2
22	ゲッケイジュ	2			2
23	ヤマツツジ	2			2
24	キツタ			1	1
25	クスノキ			1	1
26	ネムノキ			1	1
27	ヒマラヤスギ			1	2
28	マテバシイ			1	1
29	ミズキ			1	1
30	モチノキ		1		1
31	モッコク		1		1
32	イトザクラ		1		1
33	イヌツゲ		1		1
34	カシワ		1		1
35	クリ		1		1
36	サトザクラ		1		1
37	ボダイジュ		1		1
38	シロダモ		1		1
39	トウグミ		1		1
40	ムクノキ		1		1
41	ケヤキ	1			1
42	ウグイスカグラ	1			1
43	クサギ	1			1
44	ザクロ	1			1
45	サンショウ	1			1
46	スギ	1		1	1
47	ダイオウグミ	1			1
48	タラヨウ	1			1
49	ナツミカン	1			1
50	ハコネウツギ	1			1
51	ミツバツツジ	1			1
52	ムクゲ	1			1

(表Ⅱ-1) 樹高別本数



(図Ⅱ-3) 樹冠投影図



活動拠点屋敷林調査 植物目録

科	和名	学名	木本	草本
マツ科	Pinaceae			
	ヒマラヤスギ	<i>Cedrus deodara</i>	○	
スギ科	Taxodiaceae			
	スギ	<i>Cryptomeria japonica</i>	○	
イチイ科	Taxaceae			
	カヤ	<i>Torreya nucifera</i>	○	
ブナ科	Fagaceae			
	クリ	<i>Castanea crenata</i>	○	
	カシワ	<i>Quercus aliena</i>	○	
	シラカシ	<i>Quercus myrsinaefolia</i>	○	
	マテバシイ	<i>Lithocarpus edulis</i>	○	
ニレ科	Ulmaceae			
	ムクノキ	<i>Aphananthe aspera</i>	○	
	ケヤキ	<i>Zelkova serrata</i>	○	
ナデシコ科	Caryophyllaceae			
	オランダミミナグサ	<i>Cerastium glomeratum</i>		○
	ミドリハコベ	<i>Stellaria neglecta</i>		○
アカザ科	Chenopodiaceae			
	シロザ	<i>Chenopodium album</i>		○
クスノキ科	Lauraceae			
	クスノキ	<i>Cinnamomum camphora</i>	○	
	シロダモ	<i>Neolitsea sericea</i>	○	
	ゲッケイジュ	<i>Laurus nobilis</i>	○	
メギ科	Berberidaceae			
	ナンテン	<i>Nandina domestica</i>		○
ツバキ科	Theaceae			
	サザンカ	<i>Camellia sasanqua</i>	○	
	ヤブツバキ	<i>Camellia japonica</i>	○	
	ヒサカキ	<i>Eurya japonica</i>	○	
	モッコク	<i>Ternstroemia gymnanthera</i>	○	
センリョウ科	Chloranthaceae			
	ヒトリシズカ	<i>Chloranthus japonicus</i>		○
	フタリシズカ	<i>Chloranthus serratus</i>		○
ケシ科	Papaveraceae			
	ムラサキケマン	<i>Corydalis incisa</i>		○
アブラナ科	Cruciferae			
	ナズナ	<i>Capsella bursa-pastoris</i>		○
ユキノシタ科	Saxifragaceae			
	アジサイ	<i>Hydrangea macrophylla</i>		○
バラ科	Rosaceae			
	クサボケ	<i>Chaenomeles japonica</i>		○
	カリン	<i>Chaenomeles sinensis</i>	○	
	ビワ	<i>Eriobotrya japonica</i>	○	
	ウメ	<i>Prunus mume</i>	○	
	イトザクラ	<i>Prunus pendula f. pendula</i>	○	
	サトザクラ	<i>Prunus lannesiana</i>	○	
マメ科	Leguminosae			
	ネムノキ	<i>Albizia julibrissin</i>	○	
	フジ	<i>Wisteria floribunda</i>	○	

科	和名	学名	木本	草本
ミカン科	Rutaceae			
	ユズ	<i>Citrus junos</i>	○	
	ナツミカン	<i>Citrus natsudaikai</i>	○	
	サンショウ	<i>Zanthoxylum piperitum</i>		
カタバミ科	Oxalidaceae			
	カタバミ	<i>Oxalis corniculata</i>		○
	ムラサキカタバミ	<i>Oxalis corymbosa</i>		○
カエデ科	Aceraceae			
	イロハモミジ	<i>Acer palmatum</i>	○	
モチノキ科	Aquifoliaceae			
	イヌツゲ	<i>Ilex crenata</i>	○	
	モチノキ	<i>Ilex integra</i>	○	
	タラヨウ	<i>Ilex latifolia</i>	○	
	ウメモドキ	<i>Ilex serrata</i>	○	
シナノキ科	Tiliaceae			
	ボダイジュ	<i>Tilia miqueliana</i>	○	
アオイ科	Malvaceae			
	ムクゲ	<i>Hibiscus syriacus</i>	○	
グミ科	Elaeagraceae			
	ダイオウグミ	<i>Elaeagnus multiflora</i> cv. <i>Gigantia</i>	○	
	トウグミ	<i>Elaeagnus multiflora</i> var. <i>hortensis</i>	○	
スミレ科	Violaceae			
	タチツボスミレ	<i>Viola grypoceras</i>		○
	コスミレ	<i>Viola japonica</i>		○
	マルバースミレ	<i>Viola kaiskei</i> var. <i>glabra</i>		○
	ヒゴスミレ	<i>Viola sieboldiana</i>		○
ミソハギ科	Lythraceae			
	ミソハギ	<i>Lythrum anceps</i>		○
ザクロ科	Lythraceae			
	ザクロ	<i>Punica granatum</i>	○	
ミズキ科	Cornaceae			
	アオキ	<i>Aucuba japonica</i>	○	
	ミズキ	<i>Cornus controversa</i>	○	
ウコギ科	Araliaceae			
	キツタ	<i>Hedera rhombea</i>	○	
セリ科	Umbelliferae			
	ミツバ	<i>Cryptotaenia japonica</i>		○
ツツジ科	Ericaceae			
	ミツバツツジ	<i>Rhododendron dilatatum</i>	○	
	ヤマツツジ	<i>Rhododendron obtusum</i> var. <i>kaempferi</i>	○	
ヤブコウジ科	Myrsinaceae			
	マンリョウ	<i>Ardisia crenata</i>		○
カキノキ科	Ebenaceae			
	カキノキ	<i>Diospyros kaki</i>	○	
モクセイ科	Oleaceae			
	ネズミモチ	<i>Ligustrum japonicum</i>	○	
	トウネズミモチ	<i>Ligustrum lucidum</i>	○	
	ヒイラギ	<i>Osmanthus heterophyllus</i>	○	
	キンモクセイ	<i>Osmanthus fragrans</i> var. <i>aurantiacus</i>	○	
キョウチクトウ科	Apocyraceae			
	テイカカズラ	<i>Trachelospermum asiaticum</i> f. <i>intermedium</i>		○

科	和名	学名	木本	草本
アカネ科	Rubiaceae			
	ヤエムグラ	<i>Galium spurium</i> var. <i>echinospermon</i>		○
ヒルガオ科	Convolvulaceae			
	アサガオ	<i>Pharbitis nil</i>		○
クマツヅラ科	Verbenaceae			
	クサギ	<i>Clerodendrum trichotomum</i>	○	
シソ科	Labiatae			
	アカジソ	<i>Perilla frutescens</i> var. <i>acuta</i>		○
ゴマノハグサ科	Scrophulariaceae			
	ムラサキサギゴケ	<i>Mazus miquelii</i>		○
スイカズラ科	Caprifoliaceae			
	ウグイスカグラ	<i>Lonicera gracilipes</i> var. <i>glabra</i>	○	
	サンゴジュ	<i>Viburnum odoratissimum</i> var. <i>awabuki</i>	○	
	ハコネウツギ	<i>Weigela coraeensis</i>	○	
キク科	Compositae			
	クジャクアスター	<i>Aster hyb.</i>		○
	ベニバナボロギク	<i>Crassocephalum crepidioides</i>		○
	フキ	<i>Petasites japonicus</i>		○
ユリ科	Liliaceae			
	ドイツスズラン	<i>Convallaria majalis</i>		○
	ホウチャクソウ	<i>Disporum sessile</i>		○
	ジャノヒゲ	<i>Ophiopogon japonicus</i>		○
	ホトギス	<i>Tricyrtis hirta</i>		○
アヤメ科	Iridaceae			
	シャガ	<i>Iris japonica</i>		○
	キショウブ	<i>Iris pseudacorus</i>		○
イネ科	Gramineae			
	アキメヒシバ	<i>Digitaria violascens</i>		○
	クマザサ	<i>Sasa veitchii</i>		○
	シバ	<i>Zoysia japonica</i>		○
サトイモ科	Araceae			
	ウラシマソウ	<i>Arisaema thunbergii</i> ssp. <i>urasima</i>		○
ヤシ科	Palmae			
	トウジュロ	<i>Trachycarpus wagnerianus</i>	○	
ショウガ科	Zingiberaceae			
	ミョウガ	<i>Zingiber mioga</i>		○